

様式（評価機構フォーマット版）

令和6年度
自己評価報告書
(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

令和7年7月1日

町田福祉保育専門学校

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価	1	基準5 学生支援	21
基準1 教育理念・目的・育成人材像	2	5-16 就職等進路	22
1-1 理念・目的・育成人材像	3	5-17 中途退学への対応	23
基準2 学校運営	4	5-18 学生相談	24
2-2 運営方針	5	5-19 学生生活	25
2-3 事業計画	6	5-20 保護者との連携	26
2-4 運営組織	7	5-21 卒業生・社会人	27
2-5 人事・給与制度	8	基準6 教育環境	28
2-6 意思決定システム	9	6-22 施設・設備等	29
2-7 情報システム	10	6-23 学外実習、インターンシップ等	30
基準3 教育活動	11	6-24 防災・安全管理	31
3-8 目標の設定	12	基準7 学生の募集と受入れ	32
3-9 教育方法・評価等	13	7-25 学生募集活動は、適正に行われているか	33
3-10 成績評価・単位認定等	14	7-26 入学選考	34
3-11 資格・免許の取得の指導体制	15	7-27 学納金	35
3-12 教員・教員組織	16	基準8 財務	36
基準4 学修成果	17	8-28 財務基盤	37
4-13 就職率	18	8-29 予算・収支計画	38
4-14 資格・免許の取得率	19	8-30 監査	39
4-15 卒業生の社会的評価	20	8-31 財務情報の公開	40

基準 9 法令等の遵守41

9-32 関係法令、設置基準等の遵守 42

9-33 個人情報保護..... 43

9-34 学校評価..... 44

9-35 教育情報の公開 45

基準 10 社会貢献・地域貢献46

10-36 社会貢献・地域貢献 47

10-37 ボランティア活動..... 48

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和元年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
【榎本学園の教育理念】 「常に社会の動向に適合した職業人を育成すること」 【本校の目的】 「深い人間愛と奉仕の精神を身につけた、介護福祉及び保育の分野に貢献できる人材を養成すること」	● 入学定員の確保 ● 介護・保育両分野とも人材確保は国家的課題と認識し、行政および現場施設と一体になった人材育成体制を構築する。 ● 入学者の数と質の好循環につながる次世代への啓蒙、動機付けに、中長期的展望を持って取り組む。	● 高校での就職ガイダンスの拡充等、募集活動を強化。 ● 小中学校の上級学校訪問の受入れ、総合的学習の時間をいただいで分野紹介を多く展開。 ● 介護分野においては、施設関係者と連携しながら、留学生を受入れ初めて2年目となる。	介護・保育ニーズの多様化、個別化に対応し得る、より高度な専門性と論理的資質を有する人材を育成するための教育を追及。 介護現場で活躍し得る留学生指導体制の整備 国家試験合格のための教育体制整備。

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の設置法人である榎本学園の教育理念は、「常に社会の動向に適合した職業人を育成すること」であり、本校も学則にてその目的を「深い人間愛と奉仕の精神を身につけた、介護福祉及び保育の分野に貢献できる人材を養成すること」と明確に定め、学生・教職員に周知徹底している。 少子化による学生数減少が見込まれ、今後、学生の獲得に向けた新たな対応が求められる中、教育理念・目標に再度立ち返り、他校との差別化を図りつつ、今後の将来構想を描いていくことが課題である。	【榎本学園（設置法人）ホームページより】 ・・・「常に社会の動向に適合した職業人を育成すること」という教育理念を真摯に守り続け、有為な人材の育成、及び輩出する努力を地道に続けております。 教育理念に従い、先駆けて時代のニーズをいち早く掴み取り、息長く社会に必要とされ、かつ社会に貢献することができる分野の模索を続けてきた結果、現在におきましては、調理・福祉・美容・製菓の4分野、4校の専門学校と、1校の高等専修学校を擁する総合学園にまで成長することができました。（略） 現代社会においては、時代の変化するスピードは加速度的に伸びていると言われています。そのなかで、当学園では昔からある基本を大切にする一方、新しい情報や知識、技術の導入を積極的に行っております。古いものと新しいもののバランスの中にこそ、物事の本質があると考えているからです。（略）

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	理念・目的・育成人材像は明確に定め、教職員・学生等と共有する。	「常に社会の動向に適合した職業人を育成すること」を教育理念とし、学則にて「深い人間愛と奉仕の精神を身につけた、介護福祉及び保育の分野に貢献できる人材を養成すること」を目的と定めている。	教育理念の具体化と共有が課題であるが、日々の校務に取り組む中で、常に意識するよう職員会議等の場で指導する。	学則・学生便覧・ホームページ
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	福祉業界のニーズに適合した人材を育成することを目標とする。	本校の人材育成像は、業界のニーズに適合していると認識している。		学則・学生便覧・ホームページ
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	理念の達成に向け、本校独自の教育活動を行うことを目標としている。	技能・技術だけでなく、社会人としての礼儀・マナー等を教えることに力点を置いている。	他校との差別化を図り、本校独自の特色を出し続けることが課題。本校の強み弱みを再度分析し、方策を模索する。	学則・学生便覧・ホームページ
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	社会のニーズを踏まえた学校の将来像を描く必要がある。	社会のニーズに応えるためにも、ひとりでも多くの介護福祉士、保育士を育てるべく教育内容を工夫している。	少子化による学生数減少が見込まれる中、今後の将来構想を描くことが急務であり、教職員間で共有する必要がある。	学則・学生便覧・ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
榎本学園の教育理念は、実践的職業訓練機関として、常に社会の動向に適合した職業人を育成することであり、本校も社会人としての教養を身につけた介護福祉士、保育士・幼稚園教諭の養成を目的としている。そのため、単に技能・技術だけでなく、社会人としての礼儀・マナー等を教えることに力点を置いている。他校との差別化を図り、今後の将来構想を描いていくことが課題。	

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「深い人間愛と奉仕の精神を身につけた、介護福祉及び保育の分野に貢献できる人材を養成すること」という目的を果たすため、学校運営は、厚生労働省の認可を受けた介護福祉士養成施設並びに指定保育士養成施設として、介護福祉士養成施設指導要領並びに指定保育士養成施設運営基準及び各種関連する規則に基づいており、かつ事業計画もこれらの基準に則っている。また、こども保育学科については、近畿大学九州短期大学の連携校として併修システムにより保育士養成を行っている。事業計画については、本校の独自色をいかに出すかが課題である。 設置法人の組織運営は、法令に則り適切に行われているが、組織体制の在り方については、各学校の管理業務の集中化等、再検討が必要。学校運営のための組織は、組織図・校務分掌にて定め、教職員で共有している。 各教職員の職務内容・経歴が大きく異なるため、画一的な昇格制度を構築することは難しい。個々の教職員の待遇については、個別にきめ細かく対応しているのが現状であるが、昇格については、何らかの客観的な指標を策定することも検討したい。 重要事項については、理事長のリーダーシップの下、各校校長、法人本部幹部が参画する委員会で決定し、そのうち予算等重要事項については理事会の承認を得ている。しかし、権限規定が整備されておらず、理事長・校長間の決裁権限が不明確であり、今後文書化が必要。 その他の事項については、教職員全員が参加する職員会議の他、校長以下、副校長、教務・実習主任が参加する主任会議でボトムアップによる議論の上、意思決定している。 情報システム化については、費用対効果を測りながら、管理部門を中心に推進している。	学校法人榎本学園は調理・福祉（保育）・美容・製菓の4分野、4校の専門学校と、1校の高等専修学校を擁する総合学園であり、理事長のリーダーシップの下、各校は連携しながら学校運営を行なっている。その一環として、榎本学園の各校校長等が参画する定例の会議は、各校の運営上の課題等の共有化等に役立っている。 小規模組織であるため、ボトムアップによる意思決定を行いやすい。

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

2-2 運営方針

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	理念に沿った運営方針を定める。	「深い人間愛と奉仕の精神を身につけた、介護福祉及び保育の分野に貢献できる人材を養成すること」という目的を果たすため、学校運営は、厚生労働省の認可を受けた介護福祉士養成施設並びに指定保育士養成施設として、介護福祉士養成施設指導要領並びに指定保育士養成施設運営基準及び各種関連する規則に基づいている。また、こども保育学科については、近畿大学九州短期大学の連携校として併修システムにより保育士養成を行っている。		介護福祉士養成施設指導要領 指定保育士養成施設運営基準 学則 ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
厚生労働省の認可を受けた介護福祉士養成施設並びに指定保育士養成施設として、学校運営の骨格は介護福祉士養成施設指導要領並びに指定保育士養成施設運営基準及び各種関連する規則に基づくものとなっている。また、こども保育学科については、近畿大学九州短期大学の連携校として併修システムにより保育士養成を行っている。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

2-3 事業計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	理念に沿った事業計画を定めている。	前年度の反省点、改善すべき点を踏まえ、毎年度事業計画を策定している。事業計画の骨格は養成施設指導要領及び各種関連する法令に基づく。	本校独自の計画策定が課題。	校務日程表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
前年度の反省点、改善すべき点を踏まえ、毎年度事業計画を策定している。事業計画の骨格は養成施設指導要領及び各種関連する法令に基づく。本校独自の計画策定が課題である。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	専修学校設置基準等各種関連法令に則り適切に運営する。	専修学校設置基準等各種関連法令に則り適切に運営している。	効率的な組織運営のために各学校で行っている管理業務を可能な限り一元化する。	専修学校設置基準 寄付行為
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	各部門の役割を明確にした組織体制を構築する。	組織図、校務分掌を定めている。		組織図 校務分掌

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設置法人の組織運営は、法令に則り適切に行われている。組織体制の在り方については、可能な限り管理業務を一元化する等、スリム化していく。学校運営のための組織については、組織図・校務分掌にて定め、教職員で共有している。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

2-5 人事・給与制度

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	学園全体で規程を定める。 法令を遵守する。	就業規程、給与規定を定めている。		就業規程、給与規定

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設置法人である榎本学園で就業規程・給与規定を定めている。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

2-6 意思決定システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	意思決定システムを整備し、規程に定める。	重要事項については、理事長主導の下、各校校長等が参画する委員会にて決定。寄付行為に応じて理事会の承認を得ている。 日々の校務に関しては、各委員会、主任会、職員会議で議論し、ボトムアップで意思決定している。	各々の教職員が主体的に意見を発し、学校をより改善していく仕組み、風土を構築していくことが重要。 そのために、課題・問題意識を共有化すべく、コミュニケーションを図る。	組織図 職員会議議事録 理事会議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
重要事項については、理事長のリーダーシップの下、各校校長、法人本部幹部が参画する委員会で決定し、そのうち予算等重要事項については理事会の承認を得ている。 日々の校務については、教職員全員が参加する職員会議の他、校長以下、副校長、教務・実習主任が参加する主任会議、各委員会でボトムアップによる議論の上、意思決定している。	榎本学園の各校校長等が参画する会議を定期的を開催することは、各校の運営上の課題等の共有化等に役立っている。

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

2-7 情報システム

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
2-7-1 情報システム化 に取組み、業務の効率 化を図っているか	費用対効果を測りながら、 情報システム化を推進し、 業務効率化を図る。	主として管理部門で情報シ ステム化を図っている。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
費用対効果を測りながら、情報システム化を推進し、業務効率化を図る。 個人情報を取り扱う業務については、個人情報保護に関する規程を整備した 上で、対応する必要がある。	会計等の榎本学園全体に関わる業務については、情報システム化の費用対効 果が見込まれるため、既に実施済みであり、今後もさらなる効率化を図る。

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は、厚生労働省の認可を受けた介護福祉士養成施設並びに指定保育士養成施設であり、目的を深い人間愛と奉仕の精神を身につけた、介護福祉及び保育の分野に貢献できる人材を養成することと定めている。 従って教育課程の編成は介護福祉士養成施設指導要領及び指定保育士養成施設運営基準に準じたものとなっている。また、こども保育学科については、近畿大学九州短期大学の連携校として併修システムにより養成を行っている。加えて、実践的な職業教育機関として、学外実習等、実践的なカリキュラムやキャリア教育を重視することを方針としている。 実践的な職業教育機関として、就職先関係者等と積極的に意見交換を実施し、教育課程の編成に反映してきたが、平成 26 年度に「教育課程編成委員会」を設置することとした。 キャリア教育は教育活動における最重要項目の一つと捉えており、就職ガイダンス、模擬試験・模擬面接に取り組んでいるが、より一層の充実を図るべく、今後も検討を重ねていく。 授業評価への取組みは、現時点では、他教員による評価に留まっているが、学生による授業評価の実施につき検討を行う。 介護福祉士養成施設並びに指定保育士養成施設として、適格な資格・要件を備えた教員を確保している。また、非常勤講師は永年継続が困難な場合があるため、余裕を持って確保に努めている。教員の質的向上への取組みとして教員研修、近大連携校研修等への参加、他教員による授業評価を行っている。	目標資格の取得率（令和 3 年度） 介護福祉士 100% 指定介護福祉士養成施設；29 年度卒業生より国家試験受験資格及び 5 年間の介護福祉士資格付与（令和 6 年度国家試験合格率は 88%） 介護福祉学科 保育士、幼稚園教諭二種、社会福祉主事任用資格 100% 近畿大学九州短期大学併修による；卒業によって取得 こども保育学科 児童厚生二級指導員 100% 児童厚生員養成校；卒業によって取得 こども保育学科 レクリエーションインストラクター 100% 過程認定校；卒業によって取得 介護福祉学科 こども保育学科

最終更新日付	令和 7 年 7 月 1 日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------------	-------	-------

3-8 目標の設定

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	理念、目指すべき学生像を定め、教育課程の編成・実施方針を定める。	介護福祉士養成施設指導要領及び指定保育士養成施設運営基準を遵守しつつ、学外実習等、実践的なカリキュラムの他、キャリア教育を重視する方針を定めている。		学則 介護福祉士養成施設指導要領 指定保育士養成施設運営基準
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	目標とする教育到達レベルを明確に定める。	各修業年限に応じた教育到達レベルを定め、適正に運用している。		学則 介護福祉士養成施設指導要領 指定保育士養成施設運営基準

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
介護福祉士養成施設並びに指定保育士養成施設であるため、教育課程編成は介護福祉士養成施設指導要領及び指定保育士養成施設運営基準に準じている。また、こども保育学科については、近畿大学九州短期大学の連携校として併修システムにより養成を行っている。本校の目的である「深い人間愛と奉仕の精神を身につけた、介護福祉及び保育の分野に貢献できる人材を養成すること」を達成するため、学外実習等実践的なカリキュラムやキャリア教育を重視することを方針としている。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

3-9 教育方法・評価等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	教育目的・目標に沿った教育課程を編成することを方針としている。	介護福祉士養成施設指導要領並びに指定保育士養成施設運営基準を遵守し、学外実習等、実践的なカリキュラムの他、キャリア教育を重視した教育課程を編成している。		学則 介護福祉士養成施設指導要領 指定保育士養成施設運営基準
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	実践的な職業教育機関として、関連団体・企業等外部の意見を可能な限り教育課程に反映していく。	就職施設・園・卒業生と意見交換を実施し、教育課程の編成に反映させるための準備を行った	H26 年度以降は企業・関連団体と教育課程編成委員会を設置する。	学則 介護福祉士養成施設指導要領 指定保育士養成施設運営基準
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	実践的職業教育機関としてキャリア教育は最重要項目の一つと捉えている。	就職ガイダンスに加え、業界セミナー、企業説明会、学外実習、個別面談、模擬試験・模擬面接を行っている。		学則 介護福祉士養成施設指導要領 指定保育士養成施設運営基準 シラバス
3-9-4 授業評価を実施しているか	授業の改善のため授業内容を客観的に評価する仕組みは必要。	学生による授業評価は実施しておらず、他教員による評価を行っている。	学生による授業評価については、今後の検討課題とする。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）			
実践的な職業教育機関として、就職企業関係者等と積極的に意見交換を実施し、教育課程の編成に反映してきたが、平成 26 年度に「教育課程編成委員会」を設置することとした。 キャリア教育は実践的な職業教育機関として、最重要項目の一つと捉えており、就職ガイダンス、模擬試験・模擬面接に加え、より一層の充実を図るべく、今後も検討を重ねていく。 授業評価への取組みは、現時点では、他教員による評価に留まっているが、学生による授業評価の実施につき検討を行う。	平成 26 年度に「教育課程編成委員会」を設置することとした。			
	最終更新日付	令和 7 年 7 月 1 日	記載責任者	榎本 雄文

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	成績評価・修了設定基準を明確に定め、適切に運用する。	成績評価・修了設定基準を明確に定め、適切に運用している。	習熟度の低い学生に対しては、教員間で連携を密にし、個別に対応する。 自己分析表を作成し、各自で目標を自ら掲げ、その習熟度を把握できるようにする。	学則 学生便覧
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	介護福祉士・保育士の育成においては、技術・技能の成果把握は必須と考えている。	実技の試験で把握している。	自己の習熟度を理解させるために、実習の実技試験を設け、常に達成度合いを計れるようにする。	学生便覧 校務日程表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の目的である「深い人間愛と奉仕の精神を身につけた、介護福祉及び保育の分野に貢献できる人材を養成すること」を達成するためには、成績評価や単位認定基準の明確化とその適切な運用や学生の技術・技能の把握は必須とらえており、実行している。習熟度の低い学生に対しては、教員間で連携を密にし、個別に対応している。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	各種資格、免許の取得を教育課程上で明確に位置づける。	取得可能な資格、免許を実際に取得するための必要かつ十分な教育課程となっている。		介護福祉士養成施設指導要領 指定保育士養成施設運営基準 学生便覧 時間割
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	介護福祉士養成施設指導要領、指定保育士養成施設運営基準その他の法令に準じ、適切な指導体制を構築する。	それぞれの学科で取得可能な資格、免許を取得するための指導体制をとっている。		介護福祉士養成施設指導要領 指定保育士養成施設運営基準 学生便覧 時間割

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
介護福祉士養成施設指導要領、指定保育士養成施設運営基準等に則り、適切な指導体制を構築している。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

3-12 教員・教員組織

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	介護福祉士養成施設並びに指定保育士養成施設として、適格な資格・要件を備えた教員を確保する。	介護福祉士養成施設並びに指定保育士養成施設として、適格な資格・要件を備えた教員を確保している。	非常勤講師の永年勤続での確保が困難な場合もあり早めの確保が必要である。	介護福祉士養成施設指導要領 指定保育士養成施設運営基準
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	実践的な職業教育機関として、教員の指導力・技能の向上に向けた取組みを行う。	養成施設協会や各種の教員研修や近畿大学連携校研修会等への参加、他教員による授業評価の実施。	学生による授業評価について今後の検討課題とする。	介護福祉士養成施設協会関係通知集 東京都私学財団関係通知集
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	教育の質の向上に向けて、教員の組織体制を整備し、改善の余地があれば見直す。	教務部、技術指導部、就職指導部、担任会を配置している。		組織図 校務分掌

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
介護福祉士養成施設並びに指定保育士養成施設として、適格な資格・要件を備えた教員を確保している。また、非常勤講師は永年継続が困難な場合があるため、余裕を持って確保に努めている。教員の質的向上への取組みとして養成施設協会や各種の教員研修、近畿大学連携校研修等への参加、他教員による授業評価を行っている。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

基準 4 学修成果

特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）						
実践的な職業教育機関として、卒業生全員の就職を目標と位置付けており、キャリア教育の一環として就職ガイダンス、卒業生による就職体験説明会等に加え、模擬試験・模擬面接等のキャリア教育に取り組む他、就職指導部とクラス担任他全教員が連携し、ホームルームや個別面談で就職相談に対応している。近年の学生の変化に対応するため、キャリア教育にさらに力点を置くべく、就職指導部の業務拡充を図りたい。	就職率推移					
	平成 28 年度	98%	令和 1 年度	99%	令和 4 年度	100%
	平成 29 年度	98%	令和 2 年度	99%	令和 5 年度	100%
	平成 30 年度	96%	令和 3 年度	95%	令和 6 年度	100%
	資格取得状況（令和 6 年度）					
本校で取得可能な資格、免許については、卒業と同時に取得できる。介護福祉士については 29 年度卒業生より「国家試験受験資格並びに 5 年間の資格取得」に変更となった。	介護福祉士 88%					
	指定介護福祉士養成施設；29 年度卒業生より国家試験受験資格及び 5 年間の介護福祉士資格付与（令和 6 年度国家試験合格率は 88%）					
	介護福祉学科					
	保育士、幼稚園教諭二種、社会福祉主事任用資格 100%					
	近畿大学九州短期大学併修による；卒業によって取得 こども保育学科					
卒業生の社会的評価については、カリキュラムの編成に役立てるべく、就職先企業から積極的にヒアリングを行っている。より体系だったフォローアップ体制構築のために卒業生のアンケート調査の実施を検討したい。	児童厚生二級指導員 100%					
	児童厚生員養成校；卒業によって取得 こども保育学科					
	レクリエーションインストラクター 100%					
	過程認定校；卒業によって取得 介護福祉学科 こども保育学科					

最終更新日

令和7年7月1日

記載責任

榎本 雄文

4-13 就職率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-13-1 就職率の向上が図られているか	実践的な職業教育機関として、就職率の向上は重要な目標と位置付けている。	卒業生全員の就職を図るべく、就職ガイダンス、卒業生による就職体験説明会等に加え、就模擬試験・模擬面接を実施している。 就職指導部とクラス担任他全教員が連携し、ホームルームや個別面談で就職相談に対応している。	就職指導部の業務拡充。	各種ガイダンス説明資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生全員の就職を図るべく、就職ガイダンス、卒業生による就職体験説明会等に加え、模擬試験・模擬面接を実施している。また、就職指導部とクラス担任他全教員が連携し、ホームルームや個別面談で就職相談に対応している。 就職指導部の業務拡充が課題。	就職率推移 平成28年度 98% 令和2年度 99% 令和6年度 100% 平成29年度 98% 令和3年度 95% 平成30年度 96% 令和4年度 100% 令和1年度 99% 令和5年度 99%

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	28年度卒業生までは、いずれの学科、資格とも卒業と同時に取得できたが、介護福祉士については29年度卒業生より受験資格に変更となったため高い合格率が目標となる。	28年度入学生より、介護福祉士国家試験合格対策を教育課程の中に組み入れている。	令和6年度卒業生の介護福祉士国家試験合格率は88%。留学生を合格に導くことが課題であったが、令和6年度の留学生の合格率が非常に良かった。	時間割 シラバス 学生便覧 学則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	卒業生の社会的評価把握するよう努める。	毎日のように求人で訪問される就職先企業関係者からのヒアリングにより、実態の把握に努めている。 同窓会組織を活用している。	卒業生のアンケート調査の実施等、体系だったフォローアップ体制の構築を検討する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

基準 5 学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）																		
学生指導はクラス担任が中心となり、学生一人一人と向き合いながら、保護者と連携して行うことを基本としている。近年、学生指導のために保護者との連携は不可欠なものとなっているが、学校に無関心な保護者も少なからずいるため、今後は保護者会の実施も検討したい。 就職は、就職指導部が中心となり、担任・教員一丸となって個々の学生に対し、取り組んでいる。 退学率の低減（5%）を重点目標の一つと定めており、出席率の低い学生に対しては、担任が中心となって保護者と連携し、原因の把握、解決方法の模索に努めている。近年増加している目的意識の薄い学生への対応が課題である。 経済的問題を抱えている学生に対しては、学費の分納・延納を認めているが、事務負担の増加が課題となっており、システム化等の対応を検討している。また、奨学金あるいは各都道府県の介護福祉士修学資金の活用や、こども保育学科Ⅱ部に限らず、アルバイトに関しては就職指導部が斡旋を行う等積極的に推奨して、経済的負担の軽減を図っていく。本校独自の学生寮については、財務的な負担も大きいため、慎重な検討を要するものと考えている。 意欲の高い学生が始業前や放課後に行う自主練習を技術指導教員がサポートする等、学生が自主的に行う課外活動をサポートしている。 卒業生の支援も重要な課題の一つであり、卒業生からの相談に応じて転職や資格取得への支援を行っている。現時点では高校新卒の学生が中心であるが、社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備は重要な課題の一つと捉えており、種々の状況を踏まえ、対応を検討したい。	退学率推移 <table><tr><td>平成 28 年度</td><td>8.9%</td><td>令和 1 年度</td><td>7.6%</td><td>令和 4 年度</td><td>7.4%</td></tr><tr><td>平成 29 年度</td><td>7.3%</td><td>令和 2 年度</td><td>6.0%</td><td>令和 5 年度</td><td>5.6%</td></tr><tr><td>平成 30 年度</td><td>4.1%</td><td>令和 3 年度</td><td>5.2%</td><td>令和 6 年度</td><td>8.0%</td></tr></table> 学生支援 奨学金あるいは各都道府県の介護福祉士修学資金の活用や、アルバイトに関しては就職指導部が斡旋を行う等積極的に推奨している。 課外活動 始業前、放課後の自主練習の参加率が高いものとなっている。	平成 28 年度	8.9%	令和 1 年度	7.6%	令和 4 年度	7.4%	平成 29 年度	7.3%	令和 2 年度	6.0%	令和 5 年度	5.6%	平成 30 年度	4.1%	令和 3 年度	5.2%	令和 6 年度	8.0%
平成 28 年度	8.9%	令和 1 年度	7.6%	令和 4 年度	7.4%														
平成 29 年度	7.3%	令和 2 年度	6.0%	令和 5 年度	5.6%														
平成 30 年度	4.1%	令和 3 年度	5.2%	令和 6 年度	8.0%														

最終更新日付

令和 7 年 7 月 1 日

記載責任者

榎本 雄文

5-16 就職等進路

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	実践的な職業教育機関として、担任・就職課が連携して個々の学生に対し、手厚い進路指導を行う。	就職指導部が中心となり、担任・教員一丸となって個々の学生に対し、個別に進路指導に取り組んでいる。	求人票等就職先情報の一層のデータベース化を推進する。	組織図 就職指導部関係資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職指導部が中心となり、担任・教員一丸となって個々の学生に対し、個別に進路指導に取り組んでいる。求人票等就職先情報の一層のデータベース化を推進してゆく。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

5-17 中途退学への対応

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-17-1 退学率の低減が図られているか	退学率の低減（5%）を目標の一つと定めている。	出席率の低い学生に対しては原因を把握し、解決方法を見出すべく、担任が中心となり本人および保護者と頻繁に連絡を取り合って、対応している。	問題のある学生に対しては個別に手厚く対応することが基本。千差万別を前提にとにかくきめ細やかな対応を基本姿勢として努める。	学籍簿 学生基本調査 出席簿

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学率の低減（5%）を目標の一つと定めており、出席率の低い学生に対しては原因を把握し、解決方法を見出すべく、担任が中心となり本人および保護者と頻繁に連絡を取り合って、対応している。千差万別を前提にとにかくきめ細やかな対応を基本姿勢として努めている。	退学率推移 平成 28 年度 8.9% 令和 1 年度 7.6% 令和 4 年度 7.4% 平成 29 年度 7.3% 令和 2 年度 6.0% 令和 5 年度 5.6% 平成 30 年度 4.1% 令和 3 年度 5.2% 令和 6 年度 8.0%

最終更新日付	令和 7 年 7 月 1 日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	学生相談については、個別の事情に応じて、きめ細かい対応をすべく、体制を整える。	クラス担任が中心となり、学生の悩みに応じて各部の担当が加わり対応しながら、保護者との連携を図っている。	多様化する学生に対応するため、教員間で情報の共有化を図り、解決策を見出していく。	組織図 校務分掌
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	介護の在留資格が新設されたこともあり、29 年度より留学生の受入れを始めた。	現時点では、組織的な体制は整っていないが、担任、学科主任を中心に教員全員で留学生指導に取り組んでいる。	授業内容の補足的な指導に加えて、学外での日常生活も含めた生活指導が毎日のように必要。今後は担当教員の配置など体制の整備が必要となる。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
クラス担任が中心となり、学生の悩みに応じて各部の担当が加わり対応しながら、保護者との連携を図っている。多様化する学生に対応するため、教員間で情報の共有化を図り、解決策を見出してゆくように努めている。 留学生に関しては、現体制で何とか始動したものの、今後は専任担当を配置するなど、体制の整備が必要。	学校生活全般、就職等の進路に関わる事については、クラス担任や就職指導部職員が定期的に面談し、その他、問題発生時にはその他の教職員を含めて学生面談を行っている。

最終更新日付	令和 7 年 7 月 1 日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------------	-------	-------

5-19 学生生活

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	経済的側面に対しては、可能な限り支援する。	分納・延納の相談に個別に応じている。また、日本学生支援機構あるいは各都道府県の奨学金の活用や、アルバイトに関しては就職指導部の斡旋を行う等、積極的に推奨して、経済的負担の軽減を図っている。	延納者・分納者に対する個別の対応による事務負担の増大が課題となっている。	入学要項 学生便覧
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	学校保健法に則り、適切に対応する。	定期健康診断及び細菌検査を実施している。		学生便覧
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	本校独自の学生寮については、今後の検討課題である。	民間学生寮を紹介している。	学園全体での学生寮の設置は検討課題の一つ。	入学要項
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	学生が自主的に行う課外活動に対しては、支援していく。	意欲の高い学生が始業前や放課後に行う実技の自主練習を技術指導教員がサポートしている他、学生の自主的な活動については、可能な限り、支援を行うこととしている。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
経済的問題を抱えている学生に対しては、分納・延納を認めているが、事務負担の増大が課題となっており、システム化等の対応を検討している。 本校独自の学生寮については、学校側にとってコスト負担も大きいいため、慎重な検討を要するものと考えている。 自主練習のために始業前や放課後に実習室を学生に開放し、技術指導教員がサポートする等して、課外活動を支援している。	アルバイトに関しては、就職指導部が斡旋する等、積極的に推奨しており、学費等の負担を軽減できようしている。 始業前や放課後の自主練習の参加率は高いものとなっている。

5-20 保護者との連携

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか	学生指導のために、保護者との綿密な連携を目指す。	出席状況の芳しくない学生に関しては保護者とも頻繁に連絡を取り、連携を図っている。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
近年、学生指導のために保護者との連携は不可欠なものとなっており、出席率の悪い学生について保護者とも綿密に連絡を取り合い、問題の解決を図る他、遠方の学生については成績表を送付する等、クラス担任が中心となって保護者との連携に取り組んでいる。	入学式後に新入生の保護者に対する保護者会を実施している。

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	卒業生の支援も重要な課題の一つである。	卒業生からの相談に応じて就職斡旋等に取り組んでいる。	同窓会組織を活用し、卒業生との繋がりを強め、サポートして行きたい。	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	卒業生からの求めに応じて資格取得などについては、積極的にサポートする。	卒業後の資格取得等について個別に相談に応じている。	今後は制度、しくみとしての再教育プログラムを検討したい。	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	現時点では高校新卒の学生が中心であるが、少子化の影響を踏まえ、社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備は重要な課題の一つである。	介護人材の確保のための離職者等職業訓練生の受け入れを平成21年度より行っている。	今後も積極的に受け入れを行い、必要であればクラス編成や選択科目など社会人のための教育環境も視野に入れておく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生の支援も重要な課題の一つであり、卒業生からの相談に応じて就職斡旋や資格取得への支援を行っているが、今後、同窓会組織を活用して卒業生との繋がりを強め、サポートにも注力したい。 現時点では高校新卒の学生が中心であるが、少子化の影響を踏まえ、社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備は重要な課題の一つと捉えており、状況に応じて、社会人のための教育環境整備も検討する必要がある。	介護人材の確保のための離職者等職業訓練生の受け入れを今後も積極的に受け入れを行いたい。安定的に定着、継続するためにも、教育環境整備が重要となる。

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
介護福祉士養成施設並びに保育士養成施設としての法定基準のみならず、介護・保育業界の動向を踏まえ、教育上必要と思われる設備については、積極的に整備している。 介護・保育現場で、即戦力として活躍できるようカリキュラムの整備を行いそれに伴う施設の整備も図って行きたい。	介護実習室や、家政実習室といった生活支援技術に必要な施設の充実とともに、最新の介護機器、用具類も積極的に取り入れていく。 ピアノ室や図工室の他、保育を統合的に学べる演習環境の充実を図りたい。

最終更新日付	令和 7 年 7 月 1 日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------------	-------	-------

6-22 施設・設備等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	介護福祉士養成施設並びに指定保育士養成施設としての法定基準のみならず、介護・保育業界の動向を踏まえ、教育上必要と思われる設備については、積極的に整備している。 介護・保育現場で、即戦力として活躍できるようそれに伴う施設の整備も必要である。	法定基準を満たす設備の他、介護実習室や、家政実習室といった生活支援技術に必要な設備の充実。ピアノ室や図工室等演習環境の充実。	最新の介護機器、用具類も積極的に取り入れていく。 保育を統合的に学べる演習環境をより充実させたい。	介護福祉士養成施設指導要領 指定保育士養成施設運営基準

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法定基準を満たす設備のみならず、介護・保育業界の動向を踏まえ、教育上必要と思われる設備については積極的に整備している。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-23-1 実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	資格取得のため実習は必須である。実習は、実践的な教育の機会を提供すると同時に、学校での学びと実際の現場とを結びつけるもので学生が進路を検討する上での一助となっている。	資格取得のため実習は必須である。出来るだけ多機能な、またそれぞれの学生に便利ないように広いエリアでの実習先選定に心掛けている。	より多様で広範囲の施設実習が可能になるよう、実習先の開拓には今後とも注力する。	介護福祉士法 指定保育士養成施設の指定及び運営の基準 指定保育士養成施設運営基準

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格取得のため実習は必須である。実習は、実践的な教育の機会を提供すると同時に、学校での学びと実際の現場とを結びつけるもので学生が進路を検討する上での一助となっている。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用する。	消防署の指導により、防火管理者を中心として、年に一度避難訓練を実施している。		防火マニュアル
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	安全管理体制を整備し、適切に運用する。	学生に対しては、声掛けや機器、用具類の安全使用の徹底を指導し、実技授業中の事故防止に努めている。		学生便覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
消防署の指導により、防火管理者を中心として、年に一度避難訓練を実施している。 声掛けや機器、用具の安全使用を指導し、実技授業中の事故防止に努めている。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生募集活動については、専修学校協会の定めたルールを遵守することに加え、学生とのミスマッチを避けるためにも、本校のありのままの姿をわかりやすく、丁寧に説明することが重要と考えている。そのため、高等学校での進路説明会等さまざまな機会を通じて、積極的に情報提供に取り組んでいる。 入学選考は所定の基準に則り、募集要項に公募推薦の出願基準を明記する等適正かつ公正に行っている。また、AO 入試についてもエントリー基準を明記し、志望する学生・保護者に対し、内容を事前に説明する機会を設けている。個々の生徒の成績のばらつきが大きいため、入学選考に関する実績を直接授業内容に反映することは難しいが、必要に応じて教員間で共有し、学生への個別対応に活かしている。 過去 10 年以上は学費を据え置いている。消費税率の引き上げや光熱費や教材費の値上がりによるコスト増を吸収すべく、管理経費を中心とするその他経費を抑制することで、可能な限り学納金を据え置きたいと考えている。 国の離職者等訓練制度、都の委託訓練制度を今後も、積極的に受け入れていきたい。	姉妹校と一体となって広報活動に取り組んでいる。 高等学校教員向け学校説明会を定期的の実施している。

最終更新日付	令和 7 年 7 月 1 日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------------	-------	-------

7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	本校への理解を深めてもらうため、高等学校等、接続する教育機関への情報提供を積極的に取り組む。	高等学校での進路説明会等を通じて、情報提供に取り組んでいる。	進学情報サイト掲載費用等のコスト負担が課題。	ホームページ 入学案内書 募集要領
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	専修学校協会の定めたルールを遵守しつつ、当校のありのままの姿を見せることが重要と考える。	進路説明会、学校見学会、体験入学、保護者説明会等を実施している。	ガイダンスの参加費用等のコスト負担が課題。	ホームページ 入学案内書 募集要領

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生募集活動については、専修学校協会の定めたルールを遵守した上で、本校のありのままの姿を見せることが重要と考えている。また、高等学校での進路説明会等を通じて、接続する教育機関に対しては、積極的に情報提供に取り組んでいる。	姉妹校と一体となって広報活動に取り組んでいる。 高等学校向け学校説明会を定期的に実施している。

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

7-26 入学選考

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	入学選考基準を明確化し、適切に運用する。	入学選考は所定の基準に則り、適正かつ公正に行っている。		募集要項
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	入学選考に関する実績を可能な限り、授業改善等に活用する。	個々の生徒の成績のばらつきが大きいため、入学選考に関する実績を直接授業改善に活用することは難しいが、必要に応じて教員間で共有し、学生の個別対応に活かしている。		入学願書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考は所定の基準に則り、適正かつ公正に行っている。個々の生徒の成績のばらつきが大きいため、入学選考に関する実績を直接授業改善に活用することは難しいが、必要に応じて教員間で共有し、学生の個別対応に活かしている。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

7-27 学納金

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	他の介護・保育養成施設の学納金を参考にしつつ、経費内容に応じた学納金を算定する。	東京都の介護・保育養成施設としては、平均的な水準の学納金となっている。	保護者・学生の負担を軽減するためにも、可能な限り学納金を据え置くが、光熱費の値上がりを他の諸経費の削減により、対処する必要がある。	全国介護福祉士養成施設協会 東京地区協議会学納金調査結果
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	監督官庁の指導に従い、適正な取り扱いを行う。	3月31日までに辞退の申し出があった場合は、入学金を除き、返還に応じる旨、入学要項に記載している。	納入金全額の返還を請求する辞退者についても、適正かつ丁寧に対応する。	入学要項

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
過去数年は学費を据え置いている。消費税率の引き上げや光熱費や教材費の値上がりによるコスト増を吸収すべく、管理経費を中心とするその他経費を抑制することで、可能な限り学納金を据え置きたいと考えている。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
外部負債に頼ることなく運営できており、現時点で、財務基盤は強固なものと言えるが、学生数の減少により、事業活動収支は赤字になっているため、管理経費を中心としたコスト削減をさらに追及していく。 中長期の計画については、策定の時期・手順・方法などが定まっておらず、定期的 to 実施する体制が整っていないのが現状であるが、少子化により学生数の減少が見込まれる中、今後の学校運営には、施設・設備の更新計画や管理経費を中心とした支出計画をより精緻にかつ中長期のビジョンをもって策定する必要がある。 監査については、法人顧問の公認会計士が、定められた年間スケジュールに則り適切に行っている。	今日の強固な財務基盤は、設立以来、理事長の強力なリーダーシップのもと、堅実な運営を行っている結果である。会計処理については、公認会計士の指導に基づき、適正に行っている他、日々の細かい経理業務については、別途顧問税理士から指導を受けている。

最終更新日付	令和 7 年 7 月 1 日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	中長期的な財務基盤の安定を維持する。	外部負債に頼ることなく、運営できているが、学生数の減少による事業活動収支の赤字は広がっており、希望退職を募ることとした。	募集活動の強化に加え、さらなるコスト削減に取り組む必要がある。	貸借対照表 資金収支計算書 事業活動収支計算書 固定資産明細表 基本金明細表
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	財務分析を行い、財務上の問題点の把握に努める。	決算業務終了後、法人顧問の公認会計士が財務分析を行っている。		貸借対照表 資金収支計算書 事業活動収支計算書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
設立以来の堅実運営の結果、借入金の必要もなく、財務基盤は強固なものと言えるが、学生数の減少による事業活動収支の赤字は広がっており、希望退職を募ることとした。	令和元年度に希望退職を募った。

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	教育目標との整合性のとれた単年度予算・中期計画を策定する。	理事会等の機関決定を経ているものは単年度予算のみ。		資金収支予算書 事業活動収支予算書
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	予算及び計画に基づいた適正な執行管理を行う。	予算に基づいて適正に執行している。	常にゼロベースでコスト削減に取り組む	資金収支計算書 事業活動収支計算書 資金収支予算書 事業活動収支予算書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年度予算については、過大な収入を見積もることなく、概ね適正であると考えている。より精緻な中期計画の策定が課題。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

8-30 監査

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	各種法令・寄付行為を順守した適切な監査を実施する。	顧問の公認会計士との間で作成した年間監査予定表に基づき、会計指導・監査を受けている。		監査実施予定表 決算報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
監査については、年間スケジュールを定め、顧問の公認会計士により、月に一度実施しており、適正な体制を整えていると考えている。	会計士に加え、別途税理士と顧問契約を結んでおり、担当者が経理業務の基本について指導を受けている。

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	法令・ガイドラインに従い、財務情報を公開する。	ホームページにて公開している。		学園ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校法人のホームページにて財務情報を公開している。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
東京都の認可を受けた専修学校として、あるいは厚生労働省の認可を受けた介護福祉士養成施設並びに指定保育士養成施設として、関係法令・設置基準等を遵守し、学校運営を行っている。 個人情報の保護については学園として規程を定めており、情報の取扱いには施錠可能なキャビネットでの保管や、業務を行う場所を当該業務責任者および担当者以外の立ち入りを禁止している部屋に限定する等、細心の注意を払っている。 自己評価・学校関係者評価については、学校運営に積極的に活用していきたい。 教育内容・活動をはじめとする「当校のありのままを伝える」ことに関する情報公開については、財務情報や学校関係者評価を含め、主としてウェブサイトを通じ、積極的に行っている。	情報発信については、一部に改善の余地があるものの、広報部主導のもと教職員一丸となって取り組んでおり、授業風景を紹介するブログや当校独自のイベント紹介等に教員も積極的に携わっている。 SNS 等ネット環境の進歩発展に合わせて、個人情報管理は常に注意、対策が必要である。

最終更新日付	令和 7 年 7 月 1 日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------------	-------	-------

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	各種法令を遵守し、適正な学校運営を行う。	専修学校設置基準、介護福祉士法施行規則、介護福祉士養成施設指導要領、指定保育士養成施設の指定及び運営の基準等各種、法令・基準・要領に従って学校運営を行っている。		専修学校設置基準 介護福祉士法施行規則 介護福祉士養成施設指導要領 指定保育士養成施設運営基準

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
東京都の認可を受けた専修学校として、および厚生労働省の認可を受けた介護福祉士養成施設並びに指定保育士養成施設として、関係法令・設置基準等を遵守して学校運営を行っている。	

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	個人情報保護については、万全の対応をとるべく、規程を定め運用する。	学園として個人情報保護規定を制定している。 個人情報に関する書類の施錠可能な書架、部屋で保管。	SNS 等ネット環境の進歩発展に合わせた個人情報管理のさらなる対策が必要。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報の保護については、学園として規程を定めている。個人情報関連の書類については、当該業務の責任者および担当者以外の立ち入りを禁止している部屋で業務を行い、施錠可能なキャビネットで書類を保管する等、細心の注意を払っている SNS 等ネット環境の進歩に合わせた個人情報管理のさらなる対策が必要。	教職員の個人情報については法人本部で一元管理している。

最終更新日付	令和 7 年 7 月 1 日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	自己評価の実施体制を整備し、毎年度評価を行う。	教職員で実施。		学則
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	自己評価結果をウェブサイトで公表する。	平成 25 年度以降、ウェブサイトで公開。		学則
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行う。	平成 25 年度から実施。		学則
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	学校関係者評価結果をウェブサイトで公表する。	平成 25 年度以降、ウェブサイトで公開。		学則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己評価、学校関係者評価については、積極的に推進し、学校運営に反映させていく。	

最終更新日付	令和 7 年 7 月 1 日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に従い積極的に公開する。	平成 25 年度以降、ウェブサイトで公開		ウェブサイト

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学後のミスマッチを避けるべく、教育内容・活動を積極的にウェブサイトにて公開している。志願者の関心事である学生納付金、就学支援に関しても同様にウェブサイトにて公開している。	ウェブサイトの運営は教職員一丸となって対応し、ブログ「先生日誌」による授業風景の紹介等、積極的に取組んでいる。

最終更新日付	令和 7 年 7 月 1 日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
社会福祉を学ぶ学生にとって、地域福祉活動やボランティア活動は学校で学ぶこと以上の収穫がある。社会貢献・地域貢献の精神と実行力があってこそその社会福祉専門職であると考ええる。 地域に開かれた学校として、介護福祉士・保育士の育成だけでなく、多くの社会貢献、地域貢献を果たすことが、学校の使命と考える。	福祉施設から、多数のボランティア募集の案内があり、学生掲示板は常に様々な募集案内に溢れている。 本校においては、1年次夏季休暇中、最低1箇所以上の施設等においてボランティア活動を行うよう義務付けているが、多くの学生は自主的にボランティア活動を行っている。 町田市及び、町田市社会福祉協議会ボランティアセンターからの要請で、開校当時より町田市障がい者スポーツ大会での付添ボランティアを行っている。

最終更新日付	令和7年7月1日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------	-------	-------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	福祉施設から间断なく多数のボランティア募集をはいただいている。学生の積極的参加こそが、最大の貢献であると考えている。	ボランティア活動障がい者への就労の場の提供	今後も永続的の継承されるよう支援していきたい。	
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	学生の見識を広げるためにも、有効であると考えている。	29 年度より留学生受入れを始めた。	留学生受入れ以外の国際交流について検討する。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
社会貢献・地域貢献の精神と実行力という下地があつてこそその介護福祉士や保育士という社会福祉専門職であるとの考えから、積極的に取り組んでいきたい。	

最終更新日付	令和 7 年 7 月 1 日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------------	-------	-------

10-37 ボランティア活動

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ 現状・具体的な取組等	ウ 課題と解決方向	エ イの参照資料等
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	ボランティア活動を通じて地域や社会に貢献できる人材を育成する。 ボランティア活動は学校で学ぶこととはまた違った大きな価値がある。	1 年次夏休みに一か所以上のボランティアに行くことを課題としている。また、報告書の提出を求めている。	課題だからではなく、また、単発の活動ではなく、自主的参加、継続した参加がより増大していくよう指導したい。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
福祉施設から间断なく多数のボランティア募集をはいただいている。ボランティア活動は学校で学ぶこととはまた違った大きな価値があるとの考えから、より多くの学生の積極的参加を促していきたい。	

最終更新日付	令和 7 年 7 月 1 日	記載責任者	榎本 雄文
--------	----------------	-------	-------